

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

2025年からの社会保障関係費高負担時代に向かい、医療福祉を取り巻く環境の再構築がされようとしている。診療報酬改定と医療法の改正、双方からの誘導により、各地域に適した地域医療構想の実現に向けた話し合いが行われている。その会議の内容も2016年度からは作成作業部会から調整部会へと一歩進んだ議論が行われる。地域の中での当院の担う役割は、医療資源の豊富な人口の密集する市中心部とは異なり、今まで同様に高度急性期医療を中心とするものの、そこに特化することなく地域から必要とされている領域は提供を続ける方針は変わらない。しかし、地域からのニーズは強く感じながらも、診療体制不備により縮小せざるを得ない部門が、産婦人科を筆頭に複数診療科存在する。また、多くの診療医を抱える診療科も、逆に地域の患者が集中し、そこで各医師が疲弊する状況が起っており、バランス良く各診療科が地域ニーズに見合う診療医を抱えることは至難の業である。医局からの派遣医が充足しない中、その卵となる研修医はフルマッチの状況であり、彼らを大切に育て、将来のスタッフにと願っている。

このように院内の体制維持も大変な中であるが、よりスタッフの不足している聖隷福祉事業団の運営する他施設や、北遠の医療施設、近隣の医療機関へも要請に応じて医療スタッフを派遣し、地域医療の貢献に微力を尽くしている。2016年度も当院だけでなく、地域を支える聖隷三方原病院と言われるような活動を出来ればと考える。また、高度医療を支える最新の医療診断・治療機器は、それらを十分に活用するためには多くのスペースを必要とし、画像診断部・手術部・外来診療部よりスペース拡張要請が強くなっている。また新しい治療法により入院の必要が無くなり、病床の運用に多くの余剰スペースを抱える病棟も存在し、スペース配分にバランスを崩す状況となっている。しかし、これらを単純に配置換えすることで修正できるかと云えば、いろいろな制約がありそう簡単には事は進まない。敷地全体を含めて、病院内の中長期的な活動計画を練り直す時期にきていることを痛感している。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

【中期的な目標】

1. 安全で質の高い医療の提供
2. 人づくり文化の継承と働く支援
3. 地域における多施設連携の取り組み
4. 地域に望まれる病院環境の整備と社会貢献
5. 安定した経営基盤の確保

【事業・運営計画】

- 1 安全で質の高い医療の提供
 - (ア)安全な医療の提供
 - ①医療安全管理体制の評価と充実
 - ②感染管理体制の評価と充実
 - ③医療事故報告制度への対応強化
 - (イ)質の高い医療の提供
 - ①各部門の専門特化した医療体制の確立
 - ②病院機能評価の更新
 - ③退院支援の質向上
 - ④終末期を迎える患者へのインフォームド・コンセントの推進
 - (ウ)新たな病院機能の検討
 - ①手術室機能の見直し
 - ②外来・画像診断部門の再構築
 - ③院内セキュリティの検討
- 2 人づくり文化の継承と働く支援
 - (ア)医師・看護師・介護職の人材確保と定着
 - ①初期研修医採用の強化
 - ②看護師・介護職採用の強化
 - ③新専門医制度への対応
 - ④臨床研究支援の検討と構築
 - (イ)職員教育の充実
 - ①指導者育成の推進
 - ②女性のキャリアデザイン実現への支援
 - ③医療人としての卒後教育の充実
 - ④OJTの強力な推進
 - (ウ)ワーク・ライフ・バランスの充実
 - ①労働環境の改善
 - ②職員の生活利便性の向上
- 3 地域における多施設連携の取り組み
 - (ア)地域包括ケアシステムの推進
 - ①福祉・介護施設との連携推進
 - ②ICT（情報通信技術）活用の推進
 - (イ)高度救命救急センターの体制充実
 - ①重症救急患者の受け入れ体制の充実
 - ②広範囲熱傷患者の受け入れ体制の充実
 - (ウ)認知症疾患医療センターの体制充実
 - ①他医療機関との連携システムの整備
 - ②地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
 - ③相談支援体制の充実
 - (エ)地域がん診療連携拠点病院の体制充実
 - ①がんサポートセンターの継続的運営
 - ②五大がん地域連携クリティカルパスの活用推進
 - (オ)地域医療支援病院の体制充実
 - ①病診・病病連携の強化
 - ②地域連携クリティカルパスの推進
 - (カ)災害拠点病院としての体制充実
 - ①大規模災害に向けた地域連携

- 4 地域に望まれる病院環境の整備と社会貢献
- (ア)利用者サービスの向上
 - ①入退院時の利便性の向上
 - ②看護専門外来の拡充
 - (イ)地域医療構想への対応
 - ①病床機能の検討
 - (ウ)聖隷おおぞら療育センター体制充実
 - (エ)精神科救急医療基幹病院としての体制充実
 - (オ)老年期医療の意思決定の啓発
 - (カ)病院ボランティアの充実
 - (キ)障がい者雇用の継続
 - (ク)医療保護施設としての活動
 - (ケ)省エネルギー活動の継続
- 5 安定した経営基盤の確保
- (ア)診療報酬改定への対応
 - (イ)コンプライアンスに基づく業務改善の推進
 - ①施設基準の精度管理
 - ②アウトソーシングの質の確保
 - (ウ)コストパフォーマンスの向上
 - ①経営数値の精度向上と有効活用
 - ②人的資源の有効活用
 - ③職員の経営参画意識の向上

【数値指標】

サービス活動 収益	20,160 百万円	職 員 数	1,515 人
外来患者数	1,080 人	外 来 単 価	15,300 円
入院患者数	全体 630 人 <一般 551 人・精神 73 人・結核 6 人>		
入院単価	全体 61,600 円 <一般 68,000 円・精神 26,000 円・結核 32,000 円>		
病床利用率	全体 82.5%<一般 86.0%・精神 70.0%・結核 30.0%>		
紹介率	60.0%	逆紹介率	100.0%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2016 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2016年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ等」による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター〈医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）〉

施設サービスの質の管理に重点を置き、利用者に提供する日常活動やケア内容を安全で質の高いものとするため職員教育に力を入れるとともに、介護・看護職員の人材確保に取り組んでいく。

ショートステイについても、安全で質の高いサービスの確保に努め、在宅の重症心身障害児者が安心して地域生活が継続できるように支援していく。

あさひ〈生活介護〉

利用者の重度化により医療的ケアの必要度が高まり、高度な看護・介護技術が必要となっている。また、生活支援の質をさらに高めるため、職員体制の充実や職員教育を積極的に行っていく。在宅重症心身障害者の生活を支える重要な役割を果たしていくために、安定的な運営を目指していく。

児童発達支援センターひかりの子〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

在宅の重症心身障害児を支える事業として通所利用の障害児への支援だけでなく、地域で生活する重症心身障害児支援を積極的に行っていく。地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たしていくために、センター全ての事業が安全で質の高いサービスの提供に努め、安定的な運営を行っていく。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個人の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	2,011 百万円	132 百万円	79 百万円	120 百万円
職員数	195 人		11 人	20 人
入院患者・利用者数	139 人	15 人	－	－
入院単価（医療）	28,500 円	－	－	－
外来患者・利用者数	57 人	－	20 人	36 人
外来単価（医療）	5,400 円	－	－	－
単価（福祉）	8,640 円	23,270 円	14,830 円	13,450 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2015 年度に行われた介護報酬改定により、地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の位置づけがより明確となった。介護老人保健施設に求められる役割を果たし、在宅強化型要件を継続して満たすことで、全体で 2.27%マイナスという改定率の中でも増収という結果を得た。長年の課題であった大規模改修工事にも着手し、療養環境改善に向けて大きく前進している。

2016 年度はリニューアルした施設のもとで、地域における包括的な生活支援の拠点としての機能を充実させる。認知症や複数の慢性疾患を有する利用者が急増しているが、生活を支える視点を持った看護職や医療的なマインドをもった介護職などの専門職を育成し、多職種が協働することでこれらのニーズに確実に対応する。さらに、緊急受け入れの体制構築に加え、当施設の通所リハビリテーション・短期入所・入所機能と他の地域サービスを繋げ、総合的なサービス提供体制を強化する。通所リハビリテーションに関して、認知症リハビリテーションの充実など、在宅生活継続のために介護老人保健施設が行うべきサービスのあり方について検討を行う。無料低額事業においては生活困難者の経済的支援を強化し、生活自立に向けての支援に注力する。

依然として周辺施設の増床が続いており、改修工事による一時的な収益減や減価償却費等の費用増も見込まれるが、利用される方々に最高のサービスを提供することを目標とし、地域から求められる役割を確実に果たすことで必要不可欠な施設となり、安定した経営基盤の構築を図りたい。

【施設理念】

介護老人保健施設「三方原ベテルホーム」は、聖隷精神（隣人愛）に則って運営される地域社会の中の一施設である。保健・医療・福祉の総合性を大切にするとともに、そのなかで個性ある役割を担っていくものである。

【経営方針】

1. 利用者の「生きよう」という意欲を育む
2. それぞれの持てる能力を活かした自立を目指す
3. 個人として尊重され、快適に生活できる場を提供する

【中期目標】

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
2. 安定した経営基盤構築への取り組み
3. 安全で質の高いケアの提供
4. 次世代を担う人材育成と働く支援
5. 地域社会に期待される施設づくり

【事業・運営計画】

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
(ア) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供

- (イ) 在宅生活を目指した認知症治療とケアの提供
 - (ウ) 地域包括ケアシステムにおいて求められるリハビリテーションへの転換
 - (エ) 在宅復帰の強化に向けたアセスメントツールの検討
 - (オ) 地域の行政機関、施設、医療機関との情報交換・連携の強化
2. 安定した経営基盤構築への取り組み
- (ア) ベッド稼働率の向上在宅
 - (イ) 聖隷三方原病院との連携による利用者受け入れの更なる強化
 - (ウ) 在宅強化型施設としての運営の継続
 - (エ) 職員ひとりひとりの経営参画意識の向上
 - (オ) 次期報酬改定を見据えた情報収集と対応検討
3. 安全で質の高いケアの提供
- (ア) 看護体制の再構築
 - (イ) 終末期を支える緩和ケアの充実
 - (ウ) 根拠に基づいた感染管理の徹底
 - (エ) DCMを用いたパーソンセンタードケアの評価と充実
4. 次世代を担う人材育成と働く支援
- (ア) 高い医療ニーズに対応できる専門的人材の育成
 - (イ) OJTの推進強化
 - (ウ) コンプライアンス意識の向上
 - (エ) 働きやすい職場労働環境づくりの推進
 - (オ) 聖隷の基本精神の継承
5. 地域社会に期待される施設づくり
- (ア) 認知症利用者の増加に対応できる体制の構築
 - (イ) 緊急入所、緊急ショートステイの受け入れ強化
 - (ウ) 地震・風水害などの防災対策の再構築
 - (エ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
 - (オ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2016年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリ
利用者数	125人（入所116人、短期入所9人）	31人（介護保険28人、介護予防3人）
単価	12,950円	11,450円
サービス活動収益：	710,000千円	職員数：85人（常勤換算）

総合病院 聖隷浜松病院

2015 年度は「患者・職員から信頼され続ける病院を目指して」をテーマに地域に貢献できる医療を提供してきた。高度医療、急性期医療を提供することを使命として、断らない医療の提供、特定入院料病床の拡充を進めた。5 月に ICU を 18 床から 22 床に増床し、6 月に HCU を新設したことで重症患者の救急搬送の断りを減少させることができた。MF ICU を 12 床から 15 床に、小児入院管理料算定病棟を 32 床から 37 床に増床し、特定入院料病床の合計としては 104 床から 120 床に 16 床増床し高度急性期機能を強化した。8 月には 2 回目となる JCI の本審査を受審し、1 回目よりも高い評価で認証を取得することができた。9 月には新手術室が完成し、手術室が 13 室から 15 室に増室したことで手術機能が拡充された。5 月以降の特定入院料病床の拡大に伴う病棟再編に加え、9 月からは A 棟の耐震改修工事を実施し病棟移転や配置転換など年度を通して人と物の移動が頻繁に行われたが病棟稼働率を維持しつつ安全に遂行することができた。

2016 年度はプロジェクトネクサス最終年度であり、7 月末にすべての工事が完了し職員・患者アメニティが拡充する。2016 年度は新専門医制度の運用が開始される年であり、「新専門医制度への対応」を掲げ、当院が必要とする医師を安定的に確保できるよう体制整備を進める。

また「診療の標準化」「診療の効率化」を押し進めることで効率的な病院運営を目指し、職員一人当りの生産性の向上を図る。特に「手術室の効率利用」「病床の有効活用」を重点目標として手術件数の増加、病床稼働率の向上を実現する。また入院においては「後方病院との連携強化」に取り組み DPC II 区間を超える患者比率の低減を目指し、効率的で密度の高い入院診療を実現する。外来においては旧医局跡地を改修して利用し、デイサージャリー機能を拡充させる。

2016 年度はこれらの取り組みを通して、高度・急性期医療のさらなる充実を図るとともに、運営の効率化のための体制整備を進め、生産性の向上を実現する。

【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足度の向上

（ア）患者満足度の向上

- ①患者満足度の向上 この病院に満足している 入院 65%以上、外来 45%以上
この病院を家族や知人にすすめたい 入院 65%以上、外来 45%以上
- ②紹介加算算定件数 2,100 人/月 以上

（イ）職員満足度の向上

- ①職員満足度の向上 この病院で働いていることに満足している 57.8%以上
- ②家族、友人、知人などが病気になったらこの病院をすすめる 65.5%以上
- ③個別職員（サテライト職員）満足度調査結果 47.0%以上
- ④目標管理制度、研修、個人面接などを行い、人材育成に力を入れている 74.0%以上
- ⑤1年に1回以上、自分の成果や能力向上について評価を受ける機会がある 60.0%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

1. 地域包括ケアにおける機能分化の推進

（ア）後方病院との連携強化

- ①転院患者のD P C II期比率 27.5%以上

2. 高度・急性期医療の充実

（ア）断らない医療の提供

- ①救急車受入れ制限時間の低減 120 時間/月 以内
- ②直来患者断り率の低減 30%以下
- ③紹介患者断り率の低減 5%以下
- ④救急車応需率の向上 95%以上

（イ）病床の有効活用

- ①医療看護必要度の安定維持 26%以上
- ②特定入院料病床の稼働率・算定率・重症率の向上
 - I C U 稼働率 85%以上・算定率 85%以上・重症率 85%以上
 - H C U 稼働率 75%以上・算定率 50%以上・重症率 65%以上
 - N I C U 稼働率 95%以上・算定率 85%以上
 - G C U 稼働率 80%以上
 - M F I C U 稼働率 90%以上・算定率 75%以上

（ウ）外来手術の推進

- ①外来手術推進計画工程の進捗 年度内に外来手術機能設置・運用開始

（エ）手術室の効率利用

- ①手術件数の増加 11,000 件以上
- ②術間時間の短縮 2015 年度比 5 分短縮
- ③手術単価 2015 年度比 5%増加

3. 安全の保証と質の向上

(ア) 安全管理の徹底

①65歳以上入院患者のI Aレベル1以上転棟転落発生率 0.96%以下

(イ) 診療の標準化

①クリニカルパス適用率の向上 50%以上

②D P C II期超退院患者比率 25%以下

(ウ) 診療の効率化

①同意書一括署名の導入件数 100件以上

②入院初期評価テンプレート使用率 75%以上

③看護師による時間外の記録時間の短縮 2015年比5%短縮

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

1. 職員の現場力の向上

(ア) 現場主体の質改善活動の推進

①C Q Iサークル活動 提案数 30件以上

②C Q Iサークル活動 完遂率向上 80%以上

2. 仕事のやりがい

(ア) 認められる組織づくり

①認める、認められる組織調査 回収率 70%以上

3. 明日を担う人材育成

(ア) 新専門医制度への対応

①専門医研修見学者数 定員の1.5倍

②専門医研修医採用数 100%

(イ) 看護師の確保

①看護師必要数の充足率7:1病棟 100%以上

②看護師必要数の充足率特定入院料病棟 100%以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

1. 目指す医療が出来る安定した財務 ※引越し・再編時の経営維持

(ア) 年度予算の確実な達成

①サービス活動収益 28,804,350千円

②職員一人あたり収益 14,331千円

③経常増減差額 750,000千円

④人件費率 51.7%

(イ) 業務のスリム化

①超過勤務時間低減 昨年比10%低減

【数値指標】

サービス活動収益	28,804 百万円		職 員 数	2,010 名	
入 院 単 価	76,400 円	入院患者数	701 名	病床利用率	94.1%
外 来 単 価	17,000 円	外来患者数	1,575 名	平均在院日数	12.0 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率	70.0%	

聖隷浜松病院併設助産所

2015 年度は 12 月までに 4 名（延べ日数 40 日）の方の利用があった。利用延件数は 2014 年比 62.5%と減少傾向にある。2011 年 10 月から院内助産システムが稼働し、2014 年 5 月には MF I C U（12 床）をオープン。また、2015 年 5 月には 3 床増床し計 15 床となり産科部門の療養環境も大幅に改善された。社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々にも広く利用していただくことができ、受け入れ態勢の強化につなげることができた。2016 年度も引続き受入体制の確保と充実に努めていく。

聖隷淡路病院

新病院2年目の2015年度は、初年度と比較して大幅な収支改善を見せたが、予算の達成には及ばなかった。しかし4月には新たに言語聴覚士を迎え摂食嚥下療法を開始し、10月には淡路島内初となる地域包括ケア病床〔40床〕をスタートさせるなど、地域住民のニーズに則した病院運営を進めながら経営的な改善も進めてきた。また、淡路市内唯一の分娩機能を持つ産婦人科においては、2014年7月の分娩開始以来、累計分娩数が100件に達し地域のメディアでも大きく取り上げられる等、注目を集めた。更に、近隣に移転した企業に健診事業のPRを行う事で、新規顧客を獲得するなど保健予防活動においても大きな成果を得る事ができた。

職員採用についても、1月に消化器内科の若手医師を採用したのをはじめ、新人看護師の採用も順調に進み、病棟運営に必要な人数を確実に確保できた。

移転後3年目となる2016年度は、全職員が勝負の年という共通の認識を持ち、経営改善に積極的に取り組み、「職員が目指す医療を實踐できる、体制を構築していく。その為にも職員の一人一人が情報を集約し病院の運営に参画し、一丸となって事業計画を遂行していく。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 保健・医療・福祉の連携により地域のニーズに対応し、住民の健康と生命を守る
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 新病院の運営を安定させる
4. 健全な経営基盤を確立する
5. 自然環境に配慮した運営を進める

【事業・運営計画】

1. 病院機能の強化
 - (ア) 一般病床・地域包括ケア病床の安定稼働に向けた取り組み
 - (イ) 聖隷淡路地区施設との連携を強化する
 - (ウ) 淡路島中部及び神戸方面に向けて診療圏域の拡大を目指す
 - (エ) 近隣開業医・病院との関係性を深め、紹介件数を増加させる
 - (オ) 医局・医師個人のネットワーク・紹介会社等、あらゆる手立てを活用し医師招聘を行う
 - (カ) 各種広報活動を行い、早期に必要な人員（助産師・看護師）を採用する
 - (キ) 地域住民の健康診断受診率を高め、保健事業を充実する

2. 安全な医療サービスの提供と人材育成の推進

(ア) 安心・安全な医療の提供

- ① 医療安全管理の励行と感染予防対策を実践する
- ② 各職種の専門性向上と診療部への支援体制を強化する
- ③ マニュアルの見直しにより防災対応力を強化する

(イ) 人材育成の推進

- ① 事業団・病院理念の教育を推進しつつ、職員の経営参画意識を高める
- ② 役職者のマネジメント能力を向上させ、職員一人一人を成長させる
- ③ 聖隷淡路地区施設間の教育・研修計画を推進する

(ウ) 地域医療人の育成と地域雇用の推進

- ① 地元看護大学等の実習病院の役割を担い、地域医療人の育成を積極的に行う
- ② 魅力ある病院作りを行い、地域雇用の推進に努める

3. 利用者及び職員の満足度向上

- (ア) 利用者からの意見を積極的に収集し、改善活動に取り組む
- (イ) 職員が働きやすい職場環境作りに努める

4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

- (ア) コンプライアンス経営を実践し、健全な病院運営を行う
- (イ) 省エネルギー、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

5. 健全な経営基盤の確立

- (ア) 費用の削減に取り組む
- (イ) 平均入院患者 125 人/日達成に向けて取り組む
- (ウ) 平均外来患者数 132 人/日に向けて取り組む
- (エ) 職員一人一人の経営参画意識を更に向上させ、経営改善に取り組む
- (オ) 2016 年度事業予算を達成する

【数値指標】

サービス活動収益	1,829 百万円		職 員 数	178 名	
入 院 患 者 数	125 人/日	入 院 単 価	30,000 円	病 床 利 用 率	82.2%
外 来 患 者 数	132 人/日	外 来 単 価	8,800 円	平 均 在 院 日 数	20 日
紹 介 率	21%		無 料 又 は 低 額 診 療 事 業 割 合	12%	

《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設の使命感を持ち、生活困難者の受入を継続する

聖隷横浜病院

2016年度の診療報酬改定により地域包括ケアシステムの構築が推進され、医療機能の分化・強化が図られていく中で、地域内での当院の役割をより一層明確にした事業推進が求められる。院内の将来構想委員会で検討された4本の柱「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」を具現化し、質の高い安心・安全な医療を提供することで地域の期待と時代の要請に応えていきたい。

2016年度は新病院建築工事が本格的に始まる。2018年度の完成予定に向けて、現行の診療機能の低下をきたすことなく職員を含む利用者の安全第一で進めていきたい。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【経営方針】

地域住民のために急性期を中心とした医療サービスを提供し、地域医療に貢献する

1. 安全で質の高い医療の提供
2. 利用者の立場に立った医療の提供と地域連携の推進
3. 人材確保・育成
4. 職員が働きやすい環境づくり
5. 経営基盤の確立

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療を効率的に提供する
 - (ア) “断らない” 診療体制を構築
 - (イ) ハイケアユニット（HCU）の整備と病棟再編
 - (ウ) 心臓血管センターの診療充実と脳血管センター・リウマチ膠原病センターの体制整備
 - (エ) 重点診療域における診療体制の再検討（消化器・呼吸器）
 - (オ) 各科の標準的な診療指針の作成
 - (カ) 医療の質評価と公表への取り組み（日本病院会QIプロジェクトへの参加）
 - (キ) 医療安全のさらなる推進
 - (ク) 院内感染対策の徹底及び推進
 - (ケ) 防災活動の推進と災害時事業継続計画の策定
 - (コ) 電子カルテシステムと必要な部門システムの選定・導入
 - (サ) 新外来棟建築工事の安全な進行
 - (シ) 病院アメニティーの充実
 - (ス) 認知症高齢患者ケアの質向上への組織的な取り組み
2. 利用者の立場に立った医療を提供し、地域連携の推進を図る
 - (ア) 病院情報発信力の強化（ホームページの全面的な見直し）
 - (イ) 画像診断地域連携システムの導入と画像診断センターの設立
 - (ウ) 血管撮影装置2台による心血管・脳血管疾患の診療体制の強化
 - (エ) 地域包括ケア推進のための医療・介護施設等との連携強化
(保土ヶ谷区内急性期3病院連携の具体的な取り組み実施)
 - (オ) 関東地区（特に神奈川県内）聖隷施設との有機的連携

- (カ) 地域連携を推進する組織の強化
- (キ) 健康診断業務の拡充と人間ドック実施の検討
- (ク) 地域貢献型バス事業による循環バスの運行と新たな路線の検討

3. 人材を確保、育成する

- (ア) 将来構想を見据えた医師採用活動
- (イ) 看護職員の確保と定着
- (ウ) 地域に根差した人材と役職者の育成
- (エ) 初期臨床研修の充実と新専門医制度に対応した専門医育成プログラムの構築
- (オ) 障がい者雇用率の改善
- (カ) 医療倫理の浸透と接遇の向上
- (キ) 救急救命士による診療支援体制の整備

4. 職員が働きやすい環境を整える

- (ア) 職員が生き生きと働き続けられる働き方の実践（職員満足度の向上）
- (イ) 職員のメンタルヘルスを含む健康管理の推進
- (ウ) 診療支援業務の拡充（事務・医療技術部門による医師・看護師業務の積極支援）
- (エ) 院内保育の充実と病児保育への対応

5. 長期安定的に発展するために経営基盤を確立する

- (ア) 病床機能を最大限に活用した入退院調整と病棟の安定高稼働
- (イ) 将来構想を見据えた病院理念と経営方針の見直し
- (ウ) 職員一人ひとりの経営参画意識の醸成
- (エ) 診療報酬改定への対応
- (オ) 費用対効果を見据えた経費の見直し
- (カ) 省エネルギー活動の継続的な取り組み実施

【数値指標】

サービス活動収益	7,825,000 千円	職員数	533 名
外来患者数	560 名	外来単価	12,600 円
入院患者数	270 名	入院単価	55,800 円
		救急車受入台数	4000 台
		病床実稼働率	90%

《無料又は低額診療事業》

無料低額診療施設として“生活”困窮者の支援に積極的に取り組み、10%以上の実績を維持する

せいれい訪問看護ステーション横浜

新たに居宅介護支援事業所を開設し、機能強化型訪問看護ステーションの認可を受けて今後も24時間対応・終末期ケア・重症度の高い患者の受け入れを推進していく。病院との連携をさらに深め、地域包括ケアシステムの構築と在宅療養環境整備に貢献する。

【数値指標】

サービス活動収益	108,000 千円	介護保険単価	10,200 円	介護保険訪問数	7,710 件
職員数	15 名	医療保険単価	11,225 円	医療保険訪問数	2,592 件

聖隷佐倉市民病院

ハード面の整備が完了した2015年度は、急性期病院としての機能に加え、地域包括ケアシステムへの積極的な参画を視野に、地域包括ケア病棟を開設した。2016年度は、今後予想される千葉県の超高齢化社会への対応と、さらなる「地域完結型医療」を目指し、当院ならではの専門機能と最高のサービスを提供していく。そのためにも当院のスローガンである「笑顔に伝えていく、笑顔で広げていく」を意識し、職員にも充実した職場環境を提供していきたい。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営を目指す
5. 働きがいのある職場づくり

～中期的経営方針～

1. 利用者の視点に立った最高のサービスの提供
2. 地域社会のニーズに応えた病院機能の変革
3. 400床の稼働と効果的な病床利用
4. 笑顔で深い絆の組織づくり
5. 地域における聖隷佐倉ブランド力の浸透

【事業・運営計画】

1. 最高のサービスの提供

(ア) 利用者の視点に立った医療の実践

- ① サービスを支える基本技術の見直し
- ② 外来機能の再構築

(イ) チーム医療の強化

- ① 摂食嚥下センター機能の拡充
- ② 透析101床稼働に向けた準備
- ③ 病院・健診センター・訪問看護の連携強化
- ④ 地域がん診療連携協力病院としての体制充実
- ⑤ 看護師の特定行為研修修了者活用に向けての検討

(ウ) 安全文化の醸成

- ① I Aレポート提出の推進
- ② I Aレポートの活用による再発防止
- ③ 医療安全教育の充実

(エ) 医療機能評価受審に向けた準備

2. 将来のニーズに応えた病院機能の変革

(ア) 高齢者が安心できる病院づくり

- ① 増加する認知症患者へのサポート体制整備
- ② 地域包括ケアシステムへの積極的参入

(イ) 地域との連携強化

- ①他法人、異業種、行政との協力強化 ②病診・病病連携の強化

(ウ) 非稼働病床稼働に向けた取り組み

- ①第4期建築工事の検討 ②新規病棟開設に向けての準備と安定運用
③安全な看護配置体制の整備

(エ) 医療・健康分野における情報通信技術（ICT）化の推進

- ①電子カルテ導入に向けた準備

3. 専門性の高い職員の育成

(ア) キャリアアップのための支援

- ①職種に応じた教育体制の再構築 ②次世代リーダー育成機会の提供
③適材適所の人事

(イ) 研究の推進と専門性の追求

- ①多職種連携による研究発表の実践
②自己啓発のための専門資格の取得と講習会の準備 ③当院データベースの活用

4. 安定した経営基盤の確保

(ア) 増収対策と費用削減対策

- ①医師の確保 ②診療報酬改定への対応 ③職員の経営参画意識の向上
④コスト管理を重視した原価計算、マネジメントシステム導入の検討

(イ) 病床稼働率の向上

(ウ) 広報活動の充実・強化

- ①効果的なマーケティング戦略 ②院内外で積極的なイベントの開催
③ホームページの充実

5. 職員が笑顔で働ける職場環境の整備

(ア) 必要人員の確保と配置の見直し

- ①職員処遇改善の検討 ②診療部支援体制の検討
③次世代の中心的役割を担う職員の採用強化

(イ) ワークライフバランスの実現

- ①超過勤務の軽減 ②業務改善の実施

【数値指標】

サービス活動収益	9,208,100千円	職員数	693名	紹介率	50%
外来患者数	792名	外来単価	13,080円	逆紹介率	100%
入院患者数	278名	入院単価	51,910円	病床稼働率	91.4%
健診受診者	102名	健診単価	31,110円	平均在院日数	17.0日
訪問看護年訪問件数	4,200件	介護保険単価	8,800円	医療保険単価	10,500円

《無料又は低額診療事業》

2015年度は、生計困難者や外国人など多様なケースに対応することができた。引き続き社会福祉法人としての責務を担っていく。

保健事業部

2015年度保健事業部は、「経営基盤の安定」と「人材育成」を主な運営方針として保健事業部の運営を行ってきた。内部的には予約センターの業務改善や請求センターの立ち上げなど、組織改善が進んだ一面もあったが経営的には厳しい状況が続いている。また、2015年12月から施行されたストレスチェック制度に関しては受入れ体制を整えることができ、2016年度に向けてストレスチェック制度の事業を更に推進していく状況となっている。2016年度は、引き続き「日本再興戦略」の中で、健康・医療分野が、戦略市場創造プランの一つとして位置づけられており、国民の健康寿命の延伸と経済再生との一体的な推進を目指して、国を挙げての施策が実施されている。各自治体や企業、医療保険者においても「健康寿命の延伸」「健康格差の是正」「重症化予防」などの施策が引き続き行われている。

このような中、保健事業部は今までの健康診断の事後フォローまでに留まらず、企業が健康経営を展開できる仕組み作りや産業保健を推進し、「効果が出る保健機関」として事業所へノウハウを提供するとともに他の保健機関のモデルとなるような保健事業部を引き続き目指していく。

2016年度は、発送業務の外注化などの組織改善を更に進め、業務の効率化を図っていく。また、地域・企業健診センターの移転計画や聖隷健康診断センターと聖隷予防検診センターの業務住み分け等について検討を進めていく。静岡地区においては、3年目となった巡回健診の拡大を図り、経営基盤の安定と健全経営を目標に事業を展開していく。

この実現のためには、利用者様に保健事業部（各センター）を選び続けてもらうこと、そして職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って業務に取り組むことが大切であり、各自が経営に参画している組織を目指し、以下計画に取り組んでいく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. ご利用者様が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 年間50万件の健診データを利用し、自らのエビデンスを検討し、先駆的な検査、新しい健診コースを導入していく
 - (イ) 健診受診順路の変更など待ち時間削減の施策を実行し、快適な受診環境を整える
 - (ウ) IAレポートの分析を徹底するとともに、危機管理体制の強化を図る
 - (エ) 長期的な健康増進活動を目指し、子供から高齢者まで年代に応じた健康診断や健康支援活動を検討する

2. 経営基盤強化のための取り組み
 - (ア) ストレスチェック制度の推進
 - (イ) 業務の集約化と効率化を進める（センター化構想の推進）
 - (ウ) 利用者ニーズに合致したプランを考案する
 - (エ) 個人の事後フォローに留まらず、企業等の健康経営を支援できる産業保健体制を積極的に展開する

3. 人材の育成と確保
 - (ア) 専門資格の取得を推進する
 - (イ) 医師確保に向けてホームページ等を含め、情報発信を積極的に行う
 - (ウ) 自ら課題解決できる人材と係長・中堅職員の人材育成に取り組む
 - (エ) 保健事業部、各センターの強みを明確にして、職員一人ひとりに浸透させる

4. 健康経営の実践と発信
 - (ア) 「健康経営」を実践し、他企業へ「健康経営」の仕組み作りを提案していく
 - (イ) 働きやすい職場環境の整備

5. データヘルス計画に向けて
 - (ア) 保健事業部グループ内のデータ連携により、事業部独自の分析を行い積極的に発信する
 - (イ) 利用者に対し、健康情報発信webサービス「Q u p i o (クピオ) f o r 聖隷」を利用したポピュレーションアプローチを実施し、継続した健康管理サービスを展開する
 - (ウ) 医療保険者、自治体等のニーズを把握し、保健事業部保有データを積極的に活用し、必要とされる分析データを提供する

6. 連携の強化
 - (ア) 効率化・標準化を目指し、保健事業部内における機能統合推進を進める
 - ①本部機能の連携強化(センター化構想の推進)
 - ②保健事業部内の各施設・各課職員の応援体制を実行する
 - (イ) 関連団体・関連行政との連携を積極的に進める
 - (ウ) 聖隷沼津健康診断センターとのデータ統合による県内全域（東部・中部・西部）における健診から再検査受入れ体制を整える

【数値指標】

1日ドック	宿泊ドック	P E T健診	一般健診	特定保健指導
59,106名	685名	275名	380,412名	7,051名
婦人科健診	特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益
78,918名	38,816名	40,716名	605,979名	7,577,050千円

・職員数 704名

聖隷健康診断センター

2015年度は、利用者のニーズに対応した予約枠の確保を実現させ、検査時間及び待ち時間削減を進めるために、採血検査の一本化を実施した。その結果、採血の待ち時間の短縮が図ることができ、また検査体制の効率化を図ることができた。2014年度に導入した指定時間受付は、利用者への周知もでき、利用者から高評価を得ている。精密検査は、引き続き3ヵ月後再検査未受診者への受診勧奨を行ったが、人間ドックでの胃内視鏡検査希望者が増加する中、人間ドックでの内視鏡検査枠を増加し精密検査枠を調整したため、精密検査件数が減少した。

他の健診機関に対し優位性を持つ健康増進施設であるGENKIの利用は、ドック受診者への運動指導を積極的に行うことができ、GENKI利用者が大幅に増加した。

2016年度は、高齢化社会の進展とともに認知症が社会問題となる中、MC I（軽度認知障害）のリスクを調べ、認知症の予防に繋げる「MC I ドック」を開始し、利用者のニーズに沿った健診を実施していく。また、先駆的な取り組みとして「アミノインデックス」検査の検討を行い、早期導入を目指す。

利用者増の施策として、超音波検査室・診察室を増室し、効率的な運用を図る体制を構築することで利用者のニーズに対応する予約枠を確保していく。また、人間ドックの医師結果説明の開始時間を繰上げ、利用者の待ち時間削減・満足度の向上を図る。

精密検査の増加対策として、3ヵ月後再検査未受診者への受診勧奨とあわせて、午後での精密検査枠の拡大を図る。

聖隷ブランドの強化を目指し、専門職による健診コンシェルジュを導入し、きめ細かなサービスの提供を行う。地域で一番の施設として、保健指導・栄養指導・運動指導の更なる強化を図り、聖隷でしかできない、より精度の高い健康支援を行う。職員が働きやすい職場づくり、人材の育成にも積極的に取り組み、質の高いサービスの提供・スピード感のある経営、更なる健康経営の実践を推進していきたい。

【事業部理念】

「わたしたちは利用者の皆様と力を合わせてお一人おひとりの健康の実現を支援します」

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの提供

- (ア) 受付を含めた待ち時間を削減できる運用体制の構築
- (イ) 利用者へのオプション追加に関するアドバイスや、健診全般に対する質問・要望に対し気軽に相談いただくための専門職による「健診相談窓口」を設置する
- (ウ) 新たなドック商品である「MC I ドック」の周知と実施数の向上
- (エ) 先駆的な検査「アミノインデックス」の導入検討
- (オ) I Aレポートの情報共有ならびに分析を徹底し、リスクマネジメントを強化する
- (カ) I SMS（情報セキュリティマネジメントシステム）継続認証を取得する
- (キ) ストレスチェック制度の推進

2. 経営基盤強化のための取り組み

- (ア) 利用者に対し継続的な健康管理体制を築くため、事業所への産業保健活動を推進する
 - ①健診データの有効活用ならびに分析の充実を図る
- (イ) 二次精密受診率の向上を図る
 - ①再・精密検査対象者への受診勧奨の徹底
- (ウ) 特定保健指導受診率の向上を図る（協会けんぽ一般健診・浜松市特定健診等）
- (エ) 利用者ニーズにあったメニューの検討
- (オ) インターネット予約システムの利用拡大のためのPR活動の推進
- (カ) 午後に実施可能なオプション検査の提供など午後時間の施設の有効活用

3. 人材の育成

- (ア) 目標参画システムを積極的に活用し、中堅職員の育成を充実させる
- (イ) IAレポートを活用したOJTの推進
- (ウ) 個々の専門性を向上させるために必要な資格取得を推進する
- (エ) CSアンケートを活用し、改善のPDCAを回すことにより、接客力の向上を図る

4. データヘルス計画に向けて

- (ア) 保健事業部グループ内のデータを統合し、企業に対しヘルスアセスメントの情報発信を積極的に展開する
- (イ) 利用者に対し、健康情報webサービス「Qupio(クピオ)for 聖隷」を利用したポピュレーションアプローチを行い、継続した健康管理サービスを展開する

5. 連携強化

- (ア) 現場と営業が密接に連携し、契約内容など情報共有できる体制の構築
- (イ) 産業保健チームとして各職場間の連携強化
- (ウ) 地域住民の健康推進のため、関連機関との連携の強化

6. 健康経営への取り組み

- (ア) 職員のワークライフバランスを考慮した勤務体制の検討
- (イ) 職員スペース（休憩室等）の環境整備を充実させ、働きやすい環境作りに取り組む

【数値指標】

1日ドック	PET健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,238名	275名	49,470名	2,820名	21,600名
特殊健診	外来	合計	サービス活動収益	職員数
2,530名	18,720名	121,653名	2,453,550千円	235名

聖隷予防検診センター

2015年度は、現場力をもっと高める必要があり、予防検診センターとして特色のある健診内容の再検討を実施した。年度初めより、係長・中堅を主体にメンバーを選任し、新規スピードドック運用、時間差受付再検討、オプション事前推奨運用、健康経営活動など検討を行い、すべてが運用改善でき利用率及び利用者満足度も向上した。また、メンバーも多くの経営企画に携わることで、施設、職場間を超えた連携強化と、既存概念に捉われない広い視野をもった人材に成長した。また、予約受付変更や営業強化をし、利用者増となった。

2016年度は、予防検診センターとして選ばれ続ける健診機関を目指す。特に内視鏡・婦人科及び歯科健診などの利用率を上げるために、内部運用の変更及び職員の配置を再検討する。また、事務機能の集約化をはかり、専門職として必要な業務を実施できるように組織再編を検討する。継続的に職員満足度を高め、自らが組織の健康経営を意識し、利用者の期待に応えられる施設づくりを実践していきたい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせてお一人おひとりの健康の実現を支援します。

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供（顧客視点）

（ア）利用者満足度向上のための取組み

①職員全員による接客力の向上

②職員全員による利用者の施設内滞在時間削減効果を高めるため、リアルタイムドック・時間差受付を検証する

③先駆的な検査「アミノインデックス」の導入検討など新しいサービスの提案

（イ）地域のニーズへの対応

①施設整備及び改修を行う

②高齢者介助・身障者介助の徹底

（ウ）I Aレポートの情報共有ならびに分析を徹底し、リスクマネジメントを強化する

（エ）外部評価を活用した精度管理の向上とフロア環境整備を推進する

（オ）クレーム対策を踏まえた顧客相談窓口の整備

2. 経営基盤安定のための取組み

（ア）利用者数の確保と拡大

①産業保健を柱とした事業活動の強化（既存顧客管理・新規顧客開拓の強化）

②効果の高い営業展開及び新しい手法の実施（PR活動、利便性向上と業務の効率化）

③二次精密受診率の向上を図る

個人・事業所に対して積極的に啓蒙活動が実施できる体制を構築する

（イ）特定保健指導受診率の向上を図る（協会けんぽ一般健診・浜松市特定健診等）

- (ウ) 利用者ニーズにあった充実した商品の開発
 - ①内視鏡検査枠・婦人科健診枠・午後健診枠拡大に向けての検討
 - ②センター独自の新ドックプラン・新オプション項目の考案をする
- (エ) 医療機器、施設設備等の固定資産を有効に活用する
- (オ) ストレスチェック制度の推進

3. 人材の育成と確保

- (ア) OJTを評価できる体制構築
- (イ) 職員による新規提案・改善プロジェクトチームを構築して他職場との交流と連携強化を図る
(現場力を高める)
- (ウ) キャリアアップへの支援と強化(補助制度の情報提供・資格取得者の増加と公表実施等)
- (エ) 事務職員に対する看護・医療技術的専門知識研修の実施
- (オ) 外部職員・パート職員を含めた専門教育を実施する
- (カ) 医師をはじめとする人材確保のために、ホームページ・外部業者を有効利用し求人広報活動を強化する

4. 働きやすい職場づくりの実践

- (ア) 健康経営の方向性を明確にし、組織的に職員の健康管理・保持増進に取り組んでいく
- (イ) 職場内における環境や職種、責任など、満足して仕事に携わることができているか、職員満足度(ES)の向上を図る
- (ウ) 職員スペース(休憩室等)の環境整備を充実させる
- (エ) ワークライフバランスの推進(育児・介護・障害等働く体制と環境支援)
- (オ) ハラスメントの防止に向けて取り組んでいく
- (カ) 適正人員数・配置基準の設定

5. 連携の強化

- (ア) 保健事業部グループのデータ連携を構築し、円滑な運用を実施
- (イ) 利用者に対し、健康情報発信webサービス「Qupio(クピオ)for 聖隷」を利用したポピュレーションアプローチを実施する。それにより継続した健康管理サービスを展開する
- (ウ) 保健事業部保有データを積極的に活用し、ヘルスアセスメントなど企業・個人に対する情報発信力の強化を図る
- (エ) 大学(浜松医科大学・名古屋大学・東京大学)・企業と共同研究参加を積極的に実施する
- (オ) 保健事業部内職員による業務応援体制を実施する
- (カ) 高齢者施設への健康推進支援及び、地域の各病院・診療所との連携強化

【数値指標】

宿泊ドック	一日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
685名	17,649名	27,214名	1,673名	13,626名
特殊健診	外来	合計	サービス活動収益	職員数
1,617名	10,675名	73,139名	1,415,615千円	174名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2015年度は経営基盤の強化のために、次の3点に重点を置いて施設運営を行った。①人間ドックにおけるお薦めオプションなど新たなサービスの開始、②聖隷静岡健診クリニックと巡回健診の稼働率向上、③聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*（以下サポートセンター）として、これまで行ってきたサービスや運用が継続できているかの振り返り。その結果、利用者数においては、各部門で2014年度の実績を上回ることが出来た。サービスや運用の振り返りにおいては、不十分な点もあったため、職員の入れ替わりがあってもサービスが継続できる体制づくりに注力する。経営状況としては、2014年度との比較では増収はできたものの、マイナスの状況が続いている。

2016年度は健全経営への取組みと人材育成を優先課題とする。健全経営としては、2015年12月から始まった「ストレスチェック」について、聖隷ならではの「事後フォロー」を含めたサービスの提供、及び企業への提案を確実に行っていきたい。また人材育成については、施設が求める人材像を明確にして、職場単位ではなく施設として、求める人材を育成していく。

2016年度もサポートセンター、聖隷静岡健診クリニック、巡回健診の3施設が協働し、顧客満足度を上げて「ご利用者様に満足していただき、選んでいただく施設」となるよう、開設当初から進めてきた健全経営の推進、接遇・サービスの向上、自立した職員教育を引き続き行っていく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせてお一人おひとりの健康の実現を支援します。

【事業・運営計画】

1. 質の追求と静岡地区における聖隷ブランドの確立

- (ア) ストレスチェックにプラスして、労働衛生機関として産業医、産業看護師と連携し、事後フォローまでを含めた包括的なサービスの提案・提供を行う
- (イ) 利用者ニーズに合ったサービスの提供
 - ①60歳以上の利用者に継続受診いただくためのサービスと宿泊ドックを開始する
 - ②内視鏡、婦人科等、ニーズの高い検査における受診者枠の調整
 - ③運動指導の導入について検討を開始する
- (ウ) 聖隷静岡健診クリニックにおいて、利便性や早朝健診といった強みを更に活かすための設備投資を行う

2. 健全経営の推進と新たなサービスの創造

- (ア) 巡回健診を充実させるための営業活動とサービスを実施する
 - ①中部地区市町村と連携し、住民健診受診率の向上を目指す
 - ②聖隷富士病院と連携し、富士地区からの受診者を増やす営業展開を行う
- (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの検討
 - ①新たなオプション検査、コンシェルジュ等、先駆的なサービスの導入を検討する
 - ②精密検査受診率向上のための対策の実施（事業所へのアプローチ、チラシ作成）

(ウ) 健康情報発信webサービス「Q u p i o (クピオ) f o r 聖隷」を強みとした営業活動と健診の実施

3. 人づくり文化の醸成

(ア) 目標参画システム、ラダー等の活用により課題に気付くことができる職員を育成する

①業務改善のヒントを得るために職場ローテーションを行う

②サポートセンターの求める人材像「自ら、気付いて、考え、行動できる」人材において、職場を越えて育成を行う

(イ) 継続的かつ一歩進んだ接遇勉強会を実施し、おもてなし意識を持続する

①職員の接遇意識を持続させるための勉強会の実施

②各職場における接遇意識の醸成

(ウ) 2015年度に行った世代別ミーティングを検証し次のステップを検討し、実施する

(エ) 職員が課を越えて広い知識を得る機会を提供する

4. 健康経営の実現

(ア) 職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを目指す

①職員の努力が評価されるやりがい・楽しさのある職場づくりを行う

②できたことを誉め合える職場雰囲気を醸成する

③子育て世代が参加できる施設イベントを各委員会と連携して行う

(イ) 衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上する

①職員ドックにおける結果説明受診率100%とする

②職員が自身の健康度を意識する取組みを行う

5. 連携の可視化

(ア) 静岡県立大学等への研究協力を継続し、地域公益活動の実績をつくる

(イ) 静岡市内健診機関と連携し、静岡市における特定健診の受診率向上を目指す

(ウ) 地域のイベントに継続して参加し、地域との繋がりをより密にする

【数値指標】 聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
14,825名	62,447名	2,558名	16,089名	2,800名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
11,654名	110,372名		1,654,770千円	150名

サービス活動収益内訳 聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* 1,171,630千円
 巡回健診事業 199,110千円
 聖隷静岡健診クリニック 284,030千円

地域・企業健診センター

2015年度は健診車両の午後稼働率の向上を図り中小零細事業所の健診実施を促進しつつ、他健診機関との差別化を推進するため、人材教育に取り組み、いくつかの事業所で産業保健活動を具体的に推進した。市町村健診では、北設楽郡東栄町の新規獲得や複数年契約の更新など順調に推移することができた。また、静岡県下のファミリー健診の低迷を課題として、全国健康増進協議会、半田市医師会健康管理センターとの連携を強化、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*との巡回健診連携強化など、収益の確保のみならず新たな事業展開につながる基盤整備の一年であった。

2016年度は、2015年度の取り組みを継承し、課題とした医師派遣費用増加への対応、ストレスチェックの対応、聖隷沼津健診センターとのデータ統合などさらなる発展を目指す。そのためには、職員の健康管理や活き活きと働ける環境づくりが重要であり、手狭であった地域・企業健診センターの移転を計画する。また、仕事に対する満足度を高め、生産性や創造性を更に発揮するために中堅職員のマネジメント力の向上を図り、健診精度の向上は勿論、顧客管理を強化して、保健事業部の使命と事後支援の充実を図りたい。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの提供

(ア) 健診情報・安全管理の向上

(イ) I Aレポートの情報共有ならびに分析を徹底し、リスクマネジメントを強化

(ウ) 県内一元管理を推進し、統計情報の有効活用で差別化を推進

(エ) 利用者アメニティ向上のためにスタッフ配置、環境検証を実施しタイムリーに改善

①レディース健診のアメニティの充実（託児施設等）

②検診車両の更新と充実した整備計画の推進

(オ) I SMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の継続的な推進

(カ) 巡回健診現場運用システムの導入

2. 経営基盤安定のための取り組み

(ア) 利用者数の確保と拡大

①受診率100%（一般健康診断等）

①被扶養者健診・ファミリー健診の拡大

②午後健診の稼働率を向上させ、中小零細事業所等の健診を推進

③ストレスチェックの適正運用

(イ) オプション検査を検討する

①血液検査等オプション検査を事業所へ展開する

(ウ) 営業力強化ツール開発

①ハイリスク事業所への産業保健の展開

②各企業・事業所への適正検診項目の見直しと推奨（法令順守への勧奨）

③特殊健診CD管理媒体の開発

(エ) 検診車配車管理と固定資産を有効に活用する（原価計算を厳密に実施）

①派遣医師・パート・アルバイト依頼の効率化

(オ) 移転計画の検討

3. 人材の育成と確保

(ア) O J T 評価を第三者目線で評価できる体制構築

(イ) 若手による新規提案・改善プロジェクトチームを構築して他職場との交流と連携強化を図る

(ウ) 資格取得のための支援（衛生管理者等）

(エ) 個人が資格取得した際には必ず公表し、センターとして資格取得を推進する風土を形成

(オ) 施設内研修を開催して産業保健教育（実践報告等）を推進

4. 健康経営の実践と発信

(ア) 職員間のコミュニケーションを促進するための健康イベントを積極的に開催

(イ) 働きやすい職場作りの実践・充実

(ウ) 育児や介護者をかかえる者、身体に障がいがあっても働き続けられる職場環境づくりを推進

(エ) 衛生委員会を活性化し、組織的に職員の健康管理・保持増進に取り組む

5. データヘルス計画に向けて

(ア) 保健事業部グループ（聖隷沼津健診センター含む）のデータ連携と円滑な運用を開始

(イ) 利用者に対して健康情報発信webサービス「Q u p i o (クピオ) f o r 聖隷」を活用したポピュレーションアプローチを実施し、継続した健康管理サービスを展開

(ウ) 保健事業部保有データを積極的に活用し、ヘルスアセスメントなど企業、個人に対する情報発信力の強化

6. 連携の強化

(ア) 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* への業務支援の強化

(イ) 施設間医師の連携を強化し、巡回健診医師派遣費用を抑制

【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	合 計	サービス活動収益	職員数
244, 417 名	28, 416 名	31, 869 名	304, 702 名	2, 053, 115 千円	145 名

注) 一般健診は予防接種（6, 900 名）、ストレスチェック（27, 500 名）を含む

浜松市リハビリテーション病院

聖隷福祉事業団が浜松市リハビリテーション病院の指定管理者を受託して9年目を迎える。2015年度は、当院の役割である回復期医療のさらなる充実を図るため、10月に回復期リハビリテーション病棟を3病棟体制とした。浜松市内外からのリハビリニーズに応えるため、関連部署が一体となり、入院患者の受け入れ体制を見直したことで病床利用率が上がった。また、2011年に着手した新病院建築工事は、11月のリハビリパークの完成をもって終了し、整った施設設備を最大限に活用しつつ、医療の質および利用者サービスの向上に向けて取り組んできた。2016年2月に受審した病院機能評価への取り組みを通じて、患者それぞれに適した治療やリハビリを提供するための共通ルールの確認やプロセスの見直し、医療事故・感染防御対策など新たなルールの作成および徹底など、これまでを振り返りながら改善できる機会とした。そして、市民による市民の健康増進・介護予防を目的とした市民いきいきトレーナー養成事業では、トレーナー総会の開催によって各地域での普及活動を共有することができ、報道などにも取り上げられることで地域への貢献を実感した。

2016年度は、この地域に充実させる必要のある高次脳機能障害の医療に対し、高次脳機能センター（仮称）を設置し、医学的治療に続く就労・就学支援にも取り組み、地域に繋げる役割を担う。また、増加する脊髄損傷に対する病床確保、必要とされる回復期医療のさらなる充実を図るための施策についても引き続き検討していく。当院の提供する“生活を支える医療”は地域包括ケアシステムの中心となるため、職員個々がスキルアップを図り、自信に繋げ、また職員自らが改善する文化の醸成を図る。そして、医療の質および利用者サービスの向上と共に、効率的な事業運営を確立すべく、人員体制や運営方法についても随時見直しを図っていく。リハビリテーション従事者の育成に関するリーダーとしても、地域の医療機関や行政、市民と協働し、積極的に取り組んでいきたい。

2016年度も職員の資質・技能の向上に努め、チームアプローチによる最良の医療を提供することにより、市民から選ばれる、そして信頼される病院となることを目指していく。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用してくださる方々の尊厳と生活の質を尊重した医療を提供します

【経営方針】

地域のニーズに即し、一人ひとりを大切にしたりハビリテーション医療を展開し市民に信頼される病院を目指す

1. 患者中心主義に基づく医療を展開する
2. 安全で科学的な論拠に基づく質の高い医療を提供する
3. 医療・福祉・介護分野との幅広い連携体制を構築する
4. 最良のチームアプローチによるリハビリテーション医療を提供する
5. 健全な経営基盤を確立する
6. 職員の資質・技能向上に努め、人材確保とその育成に努力する

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) リハビリテーション医療機能の充実

① 回復期リハビリテーション病棟 3 病棟体制の確立

② 訪問看護・訪問リハビリや通所サービス等の検討

(イ) 医療安全管理・感染防御体制の充実

① 医療事故対応・感染防御体制の確立

(ウ) 業務改善による質の向上

① 病院機能評価(付加機能:リハビリテーション)認証取得

② 数値を用いた質改善活動の実施

2. 地域に求められるサービスの充実

(ア) 特色ある医療提供体制の充実

① 高次脳機能センター(仮称)の設置

② 脊髄損傷病床の検討

(イ) 地域包括ケアシステムの主導

③ えんげと声・スポーツ・肩肘専門診療の充実

① 地域住民への介護指導、いきいき事業の継続

② 在宅・福祉サービス事業部との協働

(ウ) 地域との災害対策・防災教育の連携

① 災害対策・防災教育の強化

② 医療福祉的多目的避難所の検討

3. 人材の育成と労働環境の整備

(ア) 必要な人材の確保と定着

① 医師/看護師/作業療法士/看護補助者の採用

(イ) 多様な人的資源の活用

① 病院ボランティアの活動支援と推進

② 就労支援事業所との連携

(ウ) やりがいを持って働くための仕組み作り

① 職員満足度調査の実施と改善

② キャリア支援の充実

(エ) 安心して働くことのできる職場環境作り

① 事業所内保育所の拡大

4. 安定した経営基盤の確立

(ア) 病床利用率 90%超の維持

① ベッドコントロール体制の確立

(イ) 広報機能の強化

① ホームページ活用方法の構築

② 関連施設・開業医との連携作り

(ウ) 回復期リハビリテーション病棟入院料 I の維持

① 診療報酬改定後の維持要件達成

【数値指標】

サービス活動収益	2,948,595 千円		職員数	338 名	
入院単価	33,800 円	入院患者数	203 人/日	病床利用率	90.2%
外来単価	7,080 円	外来患者数	177 人/日	平均在院日数	45 日

聖隷袋井市民病院

聖隷袋井市民病院は、2013年に袋井市の指定管理者として聖隷福祉事業団が病院運営を受託し、2016年度で4年目を迎える。2016年度は、指定管理期間（5年間）の後期として医療提供体制の整備と充実を図る年となる。

当院は、中東遠医療圏での地域包括ケア体制の一員として、地域の急性期病院はもとより、在宅復帰など地域診療所とも連携を深め、地域全体として切れ目のない医療を提供することが期待されている。

2015年度は、一般病棟と療養病棟の2病棟体制が安定的に稼働し、病棟間の連携を大切にした病床運営ができた。しかし、看護師の採用が厳しく、病棟のフル病床稼働には至っていない。

2016年4月に3病棟目となる回復期リハビリテーション病棟を開設することで、更なる病床機能の有効運用と安定稼働を目指す。引き続き病棟をフル稼働するための最大の課題でもある看護師、医療スタッフ等の人材の確保・定着を最優先として取り組みたい。4月には院内託児所を開設し、働きながら子育てに頑張る職員を支援することで、仕事と家庭の調和を図る働きやすい職場環境づくりを具現化していく。

袋井市との関係においては、2015年より同一建物内に市の健康政策を担う部門が設置され、袋井市総合健康センターが機能している。市の健康政策を担い地域包括ケア体制を具現化する部門である地域包括ケア推進課、健康づくり課などと日常的に接することにより、より良い連携が出来るようになった。

2016年度は、新規の病棟開設等、更に当院の役割を果たすことができるよう地域ニーズの把握に努め、関連医療機関及び介護事業所、医師会等との連携強化に努めたい。また、利用者一人ひとりを大切に医療を展開し、地域住民から信頼を得られる運営を目指していく。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 地域における当院の役割を再認識し、病院機能を明確化する
 - ①種別の異なる病棟機能を明確にする
 - ②当院の担う役割を積極的に地域に発信する

- (イ) 各職種の専門性を活かした質の高いチーム医療の展開
- (ウ) 当院の特性に応じた医療安全管理体制の充実
- (エ) リハビリテーション機能の強化
 - ①各病棟の特性に合わせた評価指標の検討
 - ②ニーズに即した最適なりハビリテーション機能配分
- (オ) 市民が受診しやすい健康診断の充実

2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築

- (ア) 地域完結型を目指した連携機能の向上
 - ①地域医療連携室の機能の強化
- (イ) 急性期病院からの患者の円滑な受入れ
- (ウ) 地域診療所と円滑な連携の強化
 - ①MR I・CT・エコーなど医療機器の共同利用の強化

3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供

- (ア) 袋井市総合健康センターとの連携を強化した在宅復帰支援の充実
- (イ) 介護保険施設との連携強化

4. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 人材確保と定着への取り組みの推進
- (イ) 各病棟の特性を活かした病床管理
 - ①病床管理の効率性を検証する評価項目の作成

5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

- (ア) 良好なコミュニケーションによる職員が生き生きと働ける職場環境の構築
- (イ) 当院の医療の質の向上を目指した人材育成
 - ①当院主体の教育・研修体制の構築

【数値指標】

サービス活動収益	1,166,452 千円	職員数	118 名
	患者数	単価	病床利用率
外来	64 人／日	6,300 円	-
入院	103 人／日	22,000 円	68.9%
再掲 (一般)	35 人／日	22,600 円	70.0%
(療養)	38 人／日	19,900 円	76.3%
(回復期)	30 人／日	23,900 円	60.5%